

秋山愛生館 最後の社長

秋山 孝二氏



あきやま・こうじ 1974年千葉大教育学部卒。東京都江戸川区立鹿本中で理科教諭。79年秋山愛生館入社、92年社長。98年スズケンとの合併に伴い、同社副社長。2002年に退社して03年の札幌市長選に出馬し、候補者7人中得票数4位だった(その後の再選挙で上田文雄氏が当選)。1996年から秋山記念生命科学振興財団理事長。同年から北海道経済同友会幹事、2024年から副代表幹事。札幌市出身。

デジタルに 詳細



# Q. 道内医薬品卸最大手 28年前に合併発表は早すぎた? A. 寡占化の加速先読み 遅すぎる方が悲惨

道内医薬品卸最大手だった札幌の秋山愛生館が1997年、大手医薬品卸スズケン(名古屋)との合併を発表した。存続企業はスズケンとなり、道内トップ企業は吸収される形となった。秋山愛生館は、なぜあのタイミングで企業の合併・買収(M&A)を決めたのか。28年後の今、道内は人口減や後継者難で、M&Aを模索する経営者は少なくない。合併当時の秋山愛生館社長で、現在は秋山記念生命科学振興財団の理事長を務める秋山孝二氏(74)に、当時の思いなどを聞いた。

## 両トップ懇意に

合併を選んだころ、道内医薬品卸は4社が激しく競っていました。なぜトップ企業が吸収される決断をしたのですか。

「業価が切り下げられ、利益が圧迫される中で、両トップ懇意に、合併を選んだころ、道内医薬品卸は4社が激しく競っていました。なぜトップ企業が吸収される決断をしたのですか。」

「業価が切り下げられ、利益が圧迫される中で、両トップ懇意に、合併を選んだころ、道内医薬品卸は4社が激しく競っていました。なぜトップ企業が吸収される決断をしたのですか。」

ていました。秋山愛生館とスズケンは、1994年に資本業務提携し、いわゆる『お見合い期間』を設けました。プロセスを踏むことで、十分合併してやっていけるという確信を持ちました。」

合併によって秋山愛生館の名前は消えましたが、早すぎたのでは。

「こじかかないというほどのタイミングではないけど、いまも早すぎたとは思いませんね。早すぎたといわれるのは多分前例がなかったからでしょう。でも、遅すぎる方が悲惨ではないかと思いがちです。世界から見れば、日本は一つのマーケットです。卸の会社は北海道はどこ、というよりも全国でまとめて1社に物流を任せられたほうがいいでしょう。そういう方向性から、医薬品流通は寡占化するだろうという見通しがありました。」

北海道の商圏を守れば、存続は可能だったか

「秋山さんはその後、短期間でスズケンを取り

ました。」

「秋山愛生館のときに、自分が始めた事業があったら、お願いして来てもらった人材がいまいます。合併したことで、事業を売却したり、辞めてもらったりしなければなりません。私が呼んできた人間に辞めてくれたら、自分がかつていていいものかという葛藤がありました。もっとも、秋山財団は今もスズケンの株主です。副社長を辞めた後も、株主総会に出てきます。スズケンの社長は年1回、訪ねてきてくれます。今のスズケンの方向性が合併から変わっていないかどうかを確認しています。」

スズケン副社長を辞任する理由として、当時

は2003年の札幌市長選挙への出馬を挙げっていました。

「代表権を持つ人間が辞める場合、具体的な理由を述べるといふ基準が

あり、札幌市長選への出馬準備のためと答えました。もちろん選挙に出たので政界進出ということにはなるのだろうけども、私は都市経営、経営者としての札幌市の首長に興味がありました。経済界から政界に飛び込む意識はほとんどありませんでした。だから、立選は、難しかったとも言えるんですけどね。」

1996年から北海道経済同友会の幹事で、再生可能エネルギーへの道転換を訴えています。

「歴史からの教訓を受け、再生可能エネルギーを促進する立場が大事だと、私は思っています。ただ、研究者に一番の課題を聞いたら、まずは既存の電力システムをぶっ壊さなくてはいいけません。それでも持続可能な社会を目指すなら、早く取り組むことが必要です。北海道電力の経営者にも、あなたが30年続けるの道を選ぶんですかと聞いてみたらですね。道民に対して責任を全うできるのかとね。」

28年前の当事者としてM&Aの決断に必要なことを教えてください。

「まずは、相手のことではなく、自分の会社をどうしたいのかという原点に立ち戻ることが必要です。経営者は新会社から離れる選択も、一緒に残った会社の中で生き続ける選択もあります。会社と自分の立ち位置を、はっきり見極めることが必要だと思います。」

秋山さんはその後、短期間でスズケンを取り

ました。」

「秋山愛生館のときに、自分が始めた事業があったら、お願いして来てもらった人材がいまいます。合併したことで、事業を売却したり、辞めてもらったりしなければなりません。私が呼んできた人間に辞めてくれたら、自分がかつていていいものかという葛藤がありました。もっとも、秋山財団は今もスズケンの株主です。副社長を辞めた後も、株主総会に出てきます。スズケンの社長は年1回、訪ねてきてくれます。今のスズケンの方向性が合併から変わっていないかどうかを確認しています。」

スズケン副社長を辞任する理由として、当時

は2003年の札幌市長選挙への出馬を挙げっていました。

「代表権を持つ人間が辞める場合、具体的な理由を述べるといふ基準が

あり、札幌市長選への出馬準備のためと答えました。もちろん選挙に出たので政界進出ということにはなるのだろうけども、私は都市経営、経営者としての札幌市の首長に興味がありました。経済界から政界に飛び込む意識はほとんどありませんでした。だから、立選は、難しかったとも言えるんですけどね。」

1996年から北海道経済同友会の幹事で、再生可能エネルギーへの道転換を訴えています。

「歴史からの教訓を受け、再生可能エネルギーを促進する立場が大事だと、私は思っています。ただ、研究者に一番の課題を聞いたら、まずは既存の電力システムをぶっ壊さなくてはいいけません。それでも持続可能な社会を目指すなら、早く取り組むことが必要です。北海道電力の経営者にも、あなたが30年続けるの道を選ぶんですかと聞いてみたらですね。道民に対して責任を全うできるのかとね。」

28年前の当事者としてM&Aの決断に必要なことを教えてください。

「まずは、相手のことではなく、自分の会社をどうしたいのかという原点に立ち戻ることが必要です。経営者は新会社から離れる選択も、一緒に残った会社の中で生き続ける選択もあります。会社と自分の立ち位置を、はっきり見極めることが必要だと思います。」

秋山さんはその後、短期間でスズケンを取り

ました。」